

光 兔 山 山 行 記 録



目的地	光兔山 (千刈からピストン)	期 日	平成 16 年 1 月 2 3 日 (火・祝)
山人	笠原正雄・澄子	特 記	リベンジ登山。そして 2004 年最後の山行とする。

地 点 名	(着) ~ (発)	天候	記 事
与 板	午前 6:00 発	曇	三条燕 IC ~ 中条 IC 高速半額(950 円)に行く。途中寄り道し胎内道の駅でトイレ。R113 でコンビニ。この後左前方に光兔山の形良い三角を見せる。頂上への急登を思わせるに十二分である。
千 刈 登 山 口 P	8:10 ~ 8:30	〃	中東登山口へ続く林道を右に見て先へ進む。2 台あり。ここまで 128 和。朝食。歩き始めは若年生の杉林の登り。雑木道となって葉の落ちた樹間から観音峰・頂が見える。途中キジ休み。暖かくなって 1 枚脱ぐ。
分 岐	9:15 ~ 9:20	曇	広い松の道を経て主尾根、中東道と合わせる。千刈・田麦 1.8 / 中東 2.5km の看板。この後は比較的歩きやすい尾根道。
虚 空 蔵 峰	9:45	〃	一度下って登り、虚空蔵菩薩の石柱。小銭賽銭があった。分岐 0.8 / 観音峰 0.5km の看板。
観 音 峰	10:00 ~ 10:15	〃	ブナの中に小広場。木製のきれいな小祠。少し食べる。村上からの単独女史来て、先行する。雷峰・山頂とそれへ続く稜線が見渡せる。下って『←水場』の標識が有る。右折して更に急降下。やせ尾根となる。多分この辺りで戻されたと思う。しばらくは尾根を巻きながら進む道が続く。女川渓谷を右下に見る。左の霞に微かに日本海。雷峰へ 1.0km。
雷 峰	10:50 ~ 11:05	晴	村上女史休憩中。逆光だが飯豊を望む。左右が逆転していて、右に北股、左に本山。石転び沢も見える時があると聞く。山頂へ続く登山道に人影が動いている。山頂左奥に以東岳が少し雪を被っている。姥石へ 0.3km
駒 返 し	11:40	〃	雷峰から大きく下って急登へ。2 ~ 3 箇所ロープが施してある。
山 頂	11:50 ~ 1:20	快晴	4 人いた。一夫婦は合格祈願らしい。赤い鉄製の鳥居と祠、中に記帳ノートがあった。村上女史は還暦過ぎだと言うが歩行は速い。山の話聞く。前方に朝日連峰、左から以東・大朝日・祝瓶山及び鷲ヶ巣山を教わる。彼女との会話とボカボカ陽気で長居となった。久しぶりの「菊水」が旨い。
雷 峰	2:00	〃	更に日差しが暑いくらいだ。
観 音 峰	2:30 ~ 2:40	〃	この少し手前で、山頂で後から上がって来た 40 歳くらいのトンボ帰り夫婦に追い越され、我々が最後の客となる。
虚 空 蔵 峰	2:52	〃	
分 岐	3:10	〃	さすがこの時間帯になると、もうけもの暑さは無くなる。
千 刈 登 山 口 P	3:40	〃	宮前手前で振り返って写真を撮る。
関川村「ゆーむ」		〃	入浴、漬物のみやげに買う。ここに来る途中小見橋付近で前方にボリュームたっぷりの杵差岳を望む。いつとき奥にちよびり本山が見えた。
与 板 着	7:30		酒屋に寄る。清酒「光兔山」は本醸造で高く手が出なかった。代わりに「たいしたもんじゃ」と「八海山」を買って帰る。

1999.4.11 カネさんらと 4 人で入山し、雪の尾根で強風に見舞われて戻された山だ。ずっと気に掛かったままだったが、ようやく機会を得た。雷峰付近から何故か胸苦しく少し不調な時間帯があった。妻は NIC 効果か好調な歩行で、やっとのこと後ろを追い掛けるありさまであった。上山およそ 3 時間だが、最後の急登は登りである。頂上は四方見渡すことが出来、気分が良い山だ。この時期なのに夏山を思わせるほどの快晴であった。